

摂南大学 看護学研究科看護学専攻 修士課程  
2025年度 入学試験問題<第3回>2025年2月15日

専門科目 (分野名)	地域・療養支援看護学	受験番号	
------------	------------	------	--

設問Ⅰ あなたのこれまでの看護実践において生じた倫理的問題と、その問題を解決するためのアプローチについて、具体例を挙げて考えを論じなさい。

本問題は、看護実践において生じる倫理的問題について、実践者としての経験に基づき、それを真摯に認識し、省察・分析したうえで、看護職としての判断と対応を論理的に記述できる力を評価する。特に、価値観の対立や倫理的ジレンマを適切に言語化し、患者の尊厳を守るための具体的なアプローチを、関係者との調整過程も含めて説明できるかを重視する。

解答として含まれるべき主な論点としては、

- 倫理的問題が生じた状況と、対立構造・葛藤が具体的に示されている。
- 自己の認識や感情と、それを踏まえた思考過程や判断が述べられている。
- 問題解決に向けた具体的アプローチが示されている。
- チーム内・関係者との調整（多職種連携、合意形成等）が述べられている。
- 看護の専門性・役割が明確に述べられる
- 一連のプロセスから得た学びと、今後の課題が述べられている。

以上を踏まえ、経験の記述にとどまらず、倫理的問題に対する看護職としての対応の在り方や、その考えが伝わる論述を求める。

摂南大学 看護学研究科看護学専攻 修士課程  
2025年度 入学試験問題<第3回>2025年2月15日

専門科目 (分野名)	地域・療養支援看護学	受験番号	
------------	------------	------	--

以下の設問Ⅱまたは設問Ⅲのうち、1問を選択し、解答しなさい。 選択した設問の( )内に○印を付すこと。

( ) 設問Ⅱ

以下、次の事例を読んで、問いに答えなさい。

Aさん(53歳男性)、既往歴：特になし、職業：会社社長、家族：妻50歳と高校生の子ども2人の4人暮らし  
嗜好品：喫煙(1日10本×33年間、手術に向けて禁煙中)、飲酒(会社の付き合いで週に4回程度)  
趣味：旅行、ゴルフ

半年前より排便時にたまに出血していたが、便が細く、便秘の症状が強くなり、近医を受診。内視鏡検査の結果、下部直腸がん(T3N0M0、StageⅡA)と診断され、直腸切断術(マイルズ手術)目的で入院。

入院時のAさんの受け止め：直腸にがんがあり、それを取り除く手術が必要ときいています。たまに便に血が混じっていたんですけど、痔かと思っていましたが、こんなに悪くなっていたのですね。先生からは人工肛門になるかもしれないと言われていいます。もっと早く病院に来ていれば、こんなことになっていなかったのかもしれない。人工肛門になると生活がどうなるのか不安。

問1 Aさんに現在生じている看護問題、または術後に生じる可能性のある看護問題について、あなたの考えを述べよ。

Aさんは、下部直腸がん(T3N0M0、StageⅡA)と診断され、直腸切断術(マイルズ手術)目的で入院されている。

術後に生じる身体的な問題として、全身麻酔下での手術の一般的な合併症として呼吸器合併症(肺炎・無気肺)・循環器合併症(術後出血・深部静脈血栓症)などが挙げられる。また、直腸切断術による創部痛・創部感染・縫合不全・イレウス・人工肛門に関する合併症(人工肛門壊死や出血・皮膚トラブルなど)が挙げられる。

心理社会的問題として、術前より術後の人工肛門設置に対する不安と生活の変化への懸念、自責感(もっと早く病院に来ていけばという思い)、痔と思っていた症状ががんだったことへの驚きと戸惑いなどがあり、術後は人工肛門の受容やセルフケアの獲得への問題が予測される。Aさんは、会社社長や父親としての役割があり、人工肛門増設による役割遂行への不安が挙げられる。また、術後に趣味や生活習慣の変化による心理的影響もある。

問2 問1で述べた看護問題に対する看護について、具体的な実践内容を解答しなさい。

肺炎・無気肺：術前からの禁煙の継続、疼痛の少ない排痰方法の練習、早期離床への支援など

術後出血：早期発見のためにドレーン排液の量と色、水分出入を注意して観察し、輸液や薬剤の管理など

創部痛：鎮痛剤の投与、疼痛の少ない離床への支援など

創部感染：創部の清潔保持、ドレーンの適切な管理、血糖コントロール、抗生剤の投与など

人工肛門に関する支援：人工肛門の受容を促進するための支援、心理社会的背景を考慮したセルフケア支援など

摂南大学 看護学研究科看護学専攻 修士課程  
2025年度 入学試験問題<第3回>2025年2月15日

専門科目 (分野名)	地域・療養支援看護学	受験番号	
------------	------------	------	--

( ) 設問Ⅲ

以下、次の事例を読んで、問いに答えなさい。

Bさん(65歳女性)、職業：無し、家族構成：夫67歳(血液透析を行っている)と2人暮らし  
半年前に進行性胃がん(T4N1M0、StageⅢA)と診断され、胃全摘術、リンパ節郭清、ルーワイ法による再建施行。術後補助化学療法としてS-1を半年間内服していた。定期検査で単純CTを撮影したところ腹水貯留を認め、胃がんの腹膜播種再発と診断された。そこで、S-1に加えドセタキセルを投与するために入院することになった。Bさんは、半年前の手術目的の入院時には、実父が胃がんで亡くなっていることを看護師に話していた。今回の入院に際して、Bさんは「これまで自身が薬をきちんと飲んできた」と話している。また、夫の食事について気にかけており「早く退院したい」と話している。

問 Bさんに対する看護実践について、「有害事象(副作用)」「心理」の用語を含めて、あなたの考えを述べよ。

Bさんは、胃がんの腹膜播種再発により、S-1に加えドセタキセル療法を受けることとなっている。化学療法に伴う**有害事象**として、骨髄抑制、嘔気・嘔吐、口内炎、脱毛、倦怠感、皮膚障害、神経障害、下痢や便秘などが予測される。Bさんは術後も自己管理を継続し、夫の透析に関する管理の支援も行ってきたことから、それらの役割を継続したいという思いが強く、早期退院への希望を持っている。このような背景から、治療による身体的苦痛や生活制限が、Bさんの心理的負担を高める可能性がある。

よって看護師は、Bさんが治療に伴う有害事象を理解し、症状をセルフマネジメントできるよう支援することが重要である。たとえば、食欲不振や倦怠感が出現した際の食事工夫や休養のとり方、発熱や口内炎など感染リスクの早期発見・報告方法を説明し、安心して治療を継続できるようにする。また、再発という現実に対して不安や喪失感を抱くBさんの**心理的側面**に配慮し、気持ちを受け止めながら、夫と共に生活を続けていく力を支える関わりが求められる。

さらに、Bさんが大切にしている家庭での役割を尊重し、今後の治療や生活の見通しを共に考えることで、主体的に療養生活を送れるよう支援していく。